国指定名勝 三溪園
記者発表資料

平成 28 月 7 月 8 日
公益財団法人 三溪園保勝会
事業課長 吉川利一
横浜市中区本牧三之谷 58-1
ＴＥＬ045－621－0634･5
http://www.sankeien.or.jp

早起きして“蓮”を楽しむ。

今年も**“見て、触れて楽しめる蓮のイベント”**をコンセプトに三溪園早朝観蓮会を開催します。他では見られない蓮の葉のシャワーは必見。蓮の体験コーナーでは、葉や茎を使った楽しい遊びが体験できます。

園内の茶店３軒では特別に早朝限定メニューを提供。早起きの朝に庭園内で味わう特別な朝食で、横浜に居ながらちょっとリッチな和風気分が味わえます。

三溪園早朝観蓮会　早朝 6:00 から特別 OPEN

2016 年 7 月 16 日（土）、17 日（日）、18 日（月・祝）、23 日（土）、24 日（日）、
30 日（土）、31 日（日）、8 月 6 日（土）、7 日（日）　…９日間

■イベント名　第 42 回三溪園早朝観蓮会
■時　　間　朝 6:00～8:30　※日程は上記
■会　　場　三溪園 外苑 蓮池周辺（裏面参照）
■料　　金　入園料のみで観賞できます（大人(中学生以上)500 円）
《所 在 地》横浜市中区本牧三之谷 58-1
《お問合せ》三溪園（公益財団法人 三溪園保勝会）
事業課　羽田、吉川 TEL：045-621-0634･0635 /FAX5-621-6343

体験コーナー（6:00～8:30）

《蓮の葉シャワー》

蓮の葉っぱから放射状に水が噴き出る不思議なシャワー。三溪園だけの特別な演出で小さな子どもから大人まで大人気。

《蓮の糸をとってみよう》

蓮根や蓮の茎を折ると、その切り口からたくさんの糸が取り出せる。約１２００年前、奈良時代の大和、当麻寺（たいまでら）の中将姫はこの蓮の糸で曼荼羅を織ったという伝説がある。

《葉っぱのお面作り》

クッキーの型抜きなどを使って、蓮の葉に目や口の穴をあける。親子で協力してオリジナルのお面が作れる。

《蓮茎ストローのシャボン玉》

茎をストローにして、楽しむシャボン玉遊び。

《切花の展示》

開花 1～2 日目の蓮は蜜蜂を引き寄せるため芳醇な香りを放つ。意外と知られていない蓮の甘い香りが楽しめる。

《パネル展示》

そのほか蓮に関するＱ＆Ａについて解説パネルを設置。

《プレゼント》

期間中毎日(7 月 16 日～8 月 7 日の土・日曜日・祝日…延べ 9 日間)8 時 00 分より抽選で 20 名様に蓮の種をプレゼント（育て方の説明書付）

三溪園早朝観蓮会 位置図

特別開放

三溪園のシンボル三重塔と蓮が一緒に楽しめるスポットを特別開放します。

体験コーナー

1700 ㎡の池一面に蓮花が咲きます

蓮 池

［参考］

蓮の種類

現在、三溪園に生育している蓮は主に原始蓮です。これまで、様々な品種が植えられてきましたが、背丈が高く繁殖力の強いこの品種が残りました。原始蓮は一重咲きの大きな花で、開花 1～2 日目は比較的濃い赤色ですが、3～4 日目には桃色に変化し、基部近くが白くなるのが特徴です。蓮研究で高名な大賀一郎博士が原始的な蓮として命名しました。古くから大阪府に自生していた品種で大阪府の天然記念物に指定されています。三溪園には昭和 51 年に舞妃蓮、太白蓮などとともに植えられました。

蓮の咲き方

蓮の花は、明け方から咲きはじめ 7～9 時に見頃を迎えます。その後次第につぼみ始めてお昼ごろには閉じるか、散ってしまいます。昼間でも咲いているように見える花は 3 日目の花で、9 時頃から閉じ始めた花が半開きの状態で留まっています。花は 2 日目の花がもっとも美しく、3 日目の花は花托の雌蕊が受粉して柱頭が黒くなります。開花が 2 日目か 3 日目の花かを見分けるには、柱頭を見れば分かります。花は昼頃から閉じはじめますが、半開のまま 4 日目を迎えます。３日目になると、紅蓮系統の品種はかなり退色します。

【開花１日目】

午前 5 時頃、外側の花びらがゆるみ出し、1 分間に約 2 ㎜の速さでゆっくり口を開け，1～3 ㎝の「とっくり型」になる。色も濃くなり、午前 8 時頃から閉じ始める。

【開花２日目】

夜中の午前 1 時頃から開き始める。午前 7 時から 9 時頃までに「おわん型」になり、色鮮やかになる。この頃から閉じ始め、昼頃には完全に閉じる。

【開花３日目】

夜中の午前 1 時頃から開き始める。午前 6 時頃には「おわん型」、9 時頃には「さら型」になる。花は最大に開くが、色はあせ、花びらも一ひら、二ひら散り始める。午後までに少し閉じるが、半開きの状態で終わる。

【開花４日目】

夜中の午前 1 時頃から開き始める。午前 6 時には完全に開き、花びらが散り始める。午後には一ひらもなくなり、花托だけが残る。

１日目

２日目

３日目

４日目

４日目の昼頃

早朝観蓮会限定メニュー
（6:00～9:00 または 6:00～9:30）

●雁ヶ音茶屋（かりがねぢゃや）
中華風がゆ ￥800　朝 6：00～9：00
（ホタテ貝柱・シイタケ・鶏肉入りのおかゆ・葛きりのデザート付）

●三渓園茶寮（さんけいえんさりょう）
朝がゆ　￥1,100　朝 6：00～9：00
（おかゆ・温泉卵・紀州梅干・赤出汁・水ようかんなど）

●待春軒（たいしゅんけん）
麦とろ御飯￥1,000　朝 6：00～9：30 ※100 食限定
（大和芋とろろ・ハスきんぴら・味噌汁・黒蜜寒天など）

三渓園の位置・アクセス

《所在地》
三渓園　横浜市中区本牧三之谷 58-1
《お問合せ》
三渓園（公益財団法人 三渓園保勝会）
事業課　羽田、吉川
TEL：045-621-0634･0635
FAX：045-621-6343

三溪園の蓮

蓮の咲き方

蓮の花は、明け方から咲きはじめ 7～9時に見頃を迎えます。その後次第につぼみ始めてお昼ごろには閉じるか、散ってしまいます。昼間でも咲いているように見える花は3日目の花で、9 時頃から閉じ始めた花が半開きの状態で留まっています。花は 2 日目の花がもっとも美しく、3 日目の花は花托の雌蕊が受粉して柱頭が黒くなります。開花が2日目か3日目の花かを見分けるには、柱頭を見れば分かります。花は昼頃から閉じはじめますが、半開のまま4日目を迎えます。3日目になると、紅蓮系統の品種はかなり退色します。

「ぽんっ」

蓮が開花するとき音をたてるということは、昔から一般に伝えられてきたようです。江戸の詩人梁川星巌(ヤナガワセイガン)は不忍池畔で蓮の開花音を聞こうとした折に次の詩を詠みました。

香気濛々水気清　逗廉残月影朧明
毎朝支枢費幽聴　髣髴錦苞初発声

これは「花の香はあふれ、水は清く、月はおぼろに照らす。私は毎朝、蓮の花の咲く音を聞こうとする」というような意味ですが、この頃からすでに蓮の開花音が信じられていたことがうかがえます。しかし、実際には蓮はゆっくり静かに開花するので音は聞こえません。蓮の神秘的な美しさに酔いしれ、蛙が水に飛び込む音などを聞き誤ってしまったものが、人々に言い伝えられて来たのかもしれません。

【開花1日目】

午前 5 時頃、外側の花びらがゆるみ出し、1 分間に約 2 ㎜の速さでゆっくり口を開け，1～3 ㎝の「とっくり型」になる。色も濃くなり、午前 8 時頃から閉じ始める。

【開花2日目】

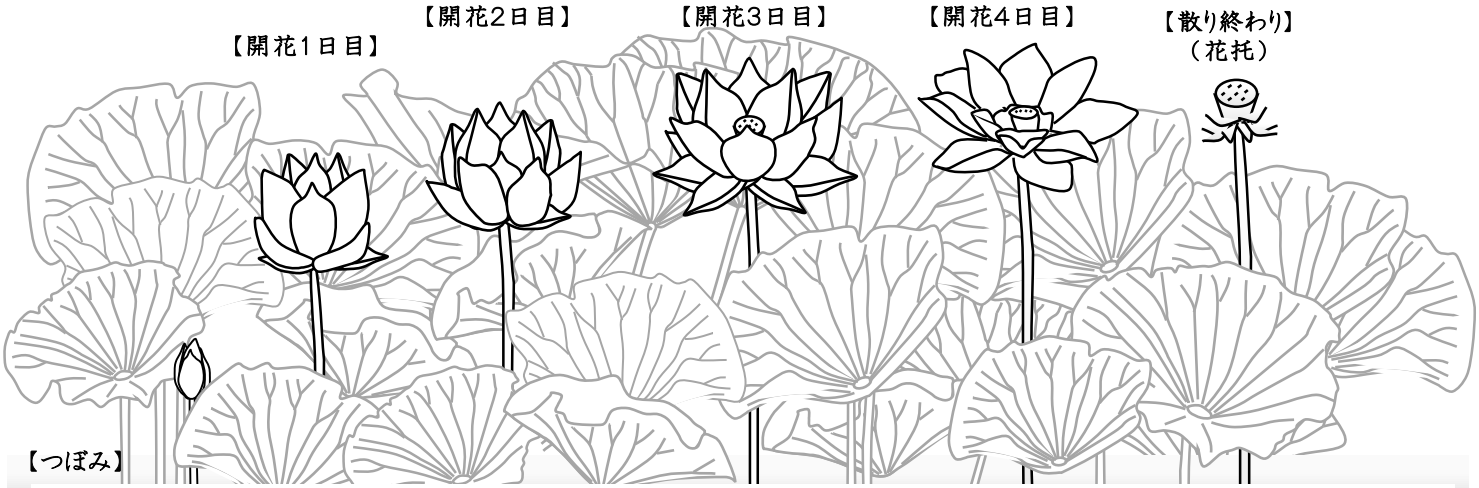
夜中の午前 1 時頃から開き始める。午前 7 時から 9 時頃までに「おわん型」になり、色鮮やかになる。この頃から閉じ始め、昼頃には完全に閉じる。

【開花3日目】

夜中の午前 1 時頃から開き始める。午前 6 時頃には「おわん型」、9 時頃には「さら型」になる。花は最大に開くが、色はあせ、花びらも一ひら、二ひら散り始める。午後までに少し閉じるが、半開きの状態で終わる。

【開花4日目】

夜中の午前 1 時頃から開き始める。午前 6 時には完全に開き、花びらが散り始める。午後には一ひらもなくなり、花托だけが残る。



場所のゆずり合いにご協力ください

花の前に三脚を設置して場所を占有するなど他のお客様のご迷惑となる行為はご遠慮ください。場所を譲り合って花をご観賞くださいますよう皆様のご協力をお願い申し上げます。

蓮見の茶会

今は三溪園の正門を入って右側の蓮池に咲く花ですが、三溪在世中には大池一面に植えられていました。
蓮の花が美しく池を彩るころになると、三溪は親しい人々を招いて、蓮見の茶会を催したそうです。船遊びの趣向で催した茶会では、ある茶人が偶然流れてきた白蓮の蓮片を取り、梅干をつつんで食べたことを一同で褒めあうなど、たいへん風流なものでした。

昭和12年8月には和辻哲郎、谷川徹三の二人を招き、一週間ほど前に急死した三溪の長男善一郎の追善の茶会を催しています。そこでは、溜め塗りの飯器に蓮の葉を敷き、その上に幾つかの紅の花弁をおいて、白飯を盛り、蓮の実入りのスープをかけた浄土飯が振舞われました。その2年後の昭和14年8月に三溪は亡くなりました。遺言により葬儀には一切の供花・供物が固く辞退され、その最期を飾ったのは、やはり園内から切り取った数本の蓮でした。

蓮の種類

現在、三溪園に生育している蓮は主に原始蓮です。これまで、様々な品種が植えられてきましたが、背丈が高く繁殖力の強いこの品種が残りました。原始蓮は一重咲きの大きな花で、開花 1～2 日目は比較的濃い赤色ですが、3～4 日目には桃色に変化し、基部近くが白くなるのが特徴です。蓮研究で高名な大賀一郎博士が原始的な蓮として命名しました。古くから大阪府に自生していた品種で大阪府の天然記念物に指定されています。三溪園には昭和 51 年に舞妃蓮、太白蓮などとともに植えられました。

古写真：鶴翔閣と大池

蓮の糸について

蓮根や蓮の茎を折ると、その切り口から無数の糸が出てきます。この糸をつむいだものを「蓮の糸(はちすのいと)」または「藕絲(ぐうし)」といいます。約1200年前、奈良時代の大和、当麻寺(たいまでら)の中将姫が蓮の糸で曼荼羅を織ったという伝説があり、極楽往生の縁を結べるとも言われています。糸の正体は細胞壁に含まれる繊維質で、螺旋状の構造が解けてくり出されてくるのです。古来、手作業で行なわれ、近年は苛性ソーダで煮ることにより、わずかに入手できましたが、40 kgの蓮の茎から、たった2gしか蓮糸が採れないそうです。

原 三溪筆「蓮華図」

蓮華図

三溪は実業家として活躍するかたわら自らも書画をたしなみ、蓮の花を描いた作品を多く遺しています。その腕前は日本画家 前田青邨が「花鳥のうまさに至っては絶品といえる程だった。原さんの絵は何というか調子の高い、個性のはっきりした専門家には絶対にかけない画であった」と語る程でした。関東大震災後、瓦礫と化した横浜の復興に全力を注いだ三溪の晩年は、静かに絵筆を取る機会が増えていったそうです。そこで愛した蓮の画を描いては、親しい人に贈っていたようです。

蓮に縁のある茶室

三溪園にある「蓮華院」はその名のとおり、蓮と縁のある茶室です。東大寺三月堂の不空羂索観音が手にしていた蓮華を飾ってあったことから名づけられました。
茶室を入ると目の前の土間には宇治平等院鳳凰堂の古材と伝えられる太い柱があり、脇には塔の石造露盤を置いて石炉としたものがあります。壁の格子戸には螺鈿の跡が残っており、この格子戸も平等院鳳凰堂の古材と伝えられています。付属の小間は松の杢板をいれた二畳中板席で天井には蓮の茎が用いられなど、大変珍しい造りとなっています。
この茶室は三溪自身が古材を用いて建てた茶室で、とりわけ愛用されました。三溪が、自ら開いた茶会をまとめた「一槌庵茶会記」によると大正六年の初陣の茶会から昭和十四年まで、じつに二十三回もの茶会が蓮華院で行われています。